

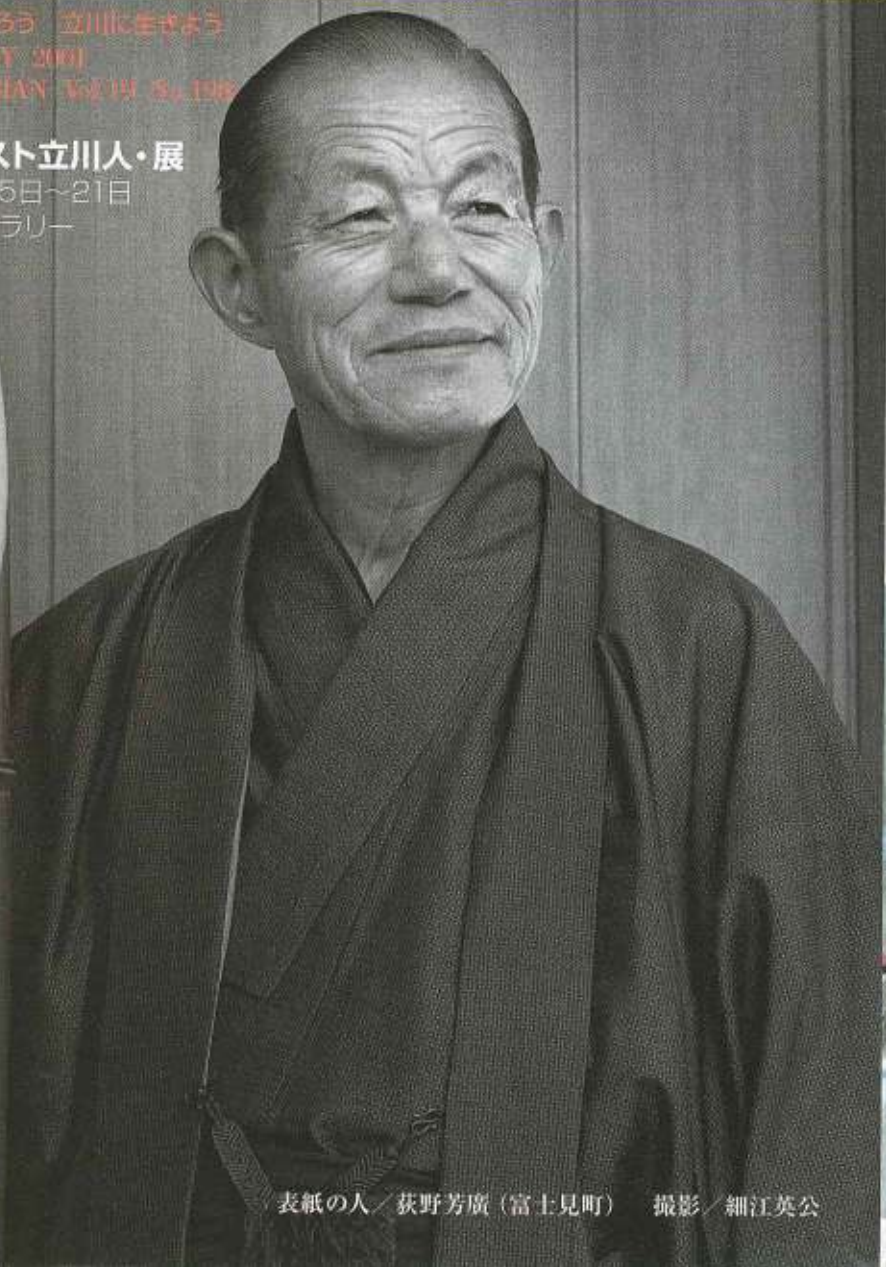
えくてびあん

1 立川と語り手 立川に生きよう
JANUARY 2001
EKUTEBIAN Vol.19 No.198

第16回 ベスト立川人・展

平成13年1月15日～21日

於・ルビネギャラリー



表紙の人／荻野芳廣（富士見町） 撮影／細江英公

松

【マツ (ウツクシマツ)】

学名：Pinus densiflora form. umbraculifera
マツ科マツ属。アカマツの中でも珍しい品種で、傘形の姿が美しく各地で天然記念物に指定されている。



市内には顕著な松の木がいくつか存在する。一番町一丁目の通称「一本松」、普濟寺の「くらかけの松」に「首塚の松」。また高さで一位を誇るのは、中央公民館の西側にそびえる黒松。高さ三十米のこの古木は、かつての諏訪の森の一角を占めた後背林の名残でもある。

さて、名木中の名木でありながら、その存在を知られていない松の古木が富士見町・鈴木喬氏の屋敷内にある。

鈴木家の先祖、鈴木平九郎（一八〇七―一八六四）が書き認めた「公私日記」は、江戸末期の立川を知る重要な資料として市の指定文化財になっている。その日記には安政三年、記念の石碑を建てるべく根府川石の見分けに行ったと



所在地：鈴木 喬氏宅
(富士見町5丁目)

父想ふたび冬麗の松高し

遠山陽子

いう記述がある。翌四年、平九郎はその石に「黄金綱の詞」と題する碑文を刻み、庭先の築山の一角に建てた。碑文にはこれまで多くの人々に支えられてきたことへの感謝、後世の繁栄の願い、そして庭の松の根元にこの碑を建てる旨が記されている。末には「天地の恵みに松の色そびて／茂る枝葉の末ぞうれしき」の一首が添えられている。

その松を調べてみると、江戸時代末期に植えられたものと推定され、「多行松」別名ウツクシマツであることが判った。この種は大変珍しく、下部の幹回りは二米三センチ、根元から七十センチの所で七幹に分かれ、さらに約三米の高さで十四〜五本に分かれる。上部は美しい傘型を自然に形成するので手入れはほとんどいらぬという。根元の碑文とともにわが街の貴重な文化財である。

さて十二回に亘り立川の名木を紹介してきたが、連載中、大勢の方から情報を頂戴した。また方々から問合せ、激励のお言葉をいただき、このコーナーに目を向けて戴いたことに対し、厚く御礼申し上げる次第である。



音が訪ねてきてくれる

作曲家・ピアニスト

ブルース・スタークさん

前編

啓介 ブルースさん、日本語は大丈夫？
スターク 会話はもうずいぶん大丈夫です。読むのと書くのは難しい。でも酔っぱらってると困る(笑)。だからワイン、あまり勧めないでね。

啓介 じゃ気をつけなさい(笑)。日本での生活はもう慣れました？
スターク だって、もう十年以上いるんですよ。仕事で最初に日本に来てから、なんとなく居心地が良かった。ハダに合

うんですよ(笑)。最初は三年くらいはつらかったんですけど、奥さんと出会ったし、もう子供も二人いるしね。いつの間にかこうなっちゃった(笑)。

啓介 前回は日本人だったかも知れないね(笑)。さっそくだけブルースさん、僕は音楽家に一度訊いてみたいことがあったんですよ。
スターク ナニ？
啓介 世の中にはたくさんのお仕事がある



■ブルース・スターク/南カリフォルニア出身。音楽家への道を好まなかった両親の反対を押し切り、独学で勉強。84年、名門ジュリアード音楽院作曲科を卒業。修士号を取得。数々のコンクールや賞に輝き、以降その活躍は世界的なものとなる。10年前から日本に在住。録音家(テノール)や工藤重典(フルート)等とのコラボレーション、多くのレコーディング作品はいずれも高い評価を得ている。国や文化の障壁を素々と超え、音楽のみに着目する姿勢を知る人は、ブルースさんを「サムライ」と語る。現在、撮影に復帰とお子さん2人の4人暮らし。
■立井啓介(たていけいすけ) / 本誌発行人。

けれど、僕は「音楽家」と「美術家」ほど大変な仕事はないと思ってるんですよ。その仕事に就くことも、その仕事をやり続けることも。
スターク どうして？ 仕事はみんな大変ですよ。

啓介 もちろんそう。でも、たとえば僕は物書き、ライターをやっているけど、この仕事はコッソコ努力をすれば、なんとかやっていけるんですよ。他の仕事もそう。コッソコやることでどうにかやってしまおう。でも、音楽と美術だけは、努力だけではやっていけないんじゃないかなって思ってるんですよ。

スターク うーん、でもボクも努力しましたよ。両親がミュージシャンになるの大反対だったからね。だからジュリアードに入っても、授業料も生活費も全部バイト。すんごく大変だったよ。つらかった。

啓介 うーん。でもねブルースさん、「天賦の才」ってわかるかな？
スターク ン？ テン…？

啓介 なんと云つたらいいかな、努力で後から身につけるものじゃなくて、生まれつき授かっている才能のこと。
スターク アアッ！ OK, OK (笑)。

啓介 そうそう。そういうものが備わってないと、ブルースさんみたいな仕事はやっていけないんじゃないかって思う。
スターク はいはい。うん、それは云えるかも知れないですね。

啓介 ね。だからそう考えると、音楽や美術の世界にはコンクールってあるでしょう？ ブルースさんも出られたことがあると思うけれど、あれって意味があるのかなって思うんですよ。「天賦の才」を

ヒーカー。それがないと油が切れた自転車みたいなになっちゃう。でも今、禁煙中なんだけど(笑)。

啓介 こうして話してみると良くわかるけれど、ブルースさんって「枠」がないんですよ。日本人とかアメリカ人とか、その差なんてどうでも良くなっちゃう。
スターク 文化が違うと当たり前のことが当たり前じゃなくなるから、難しいよね。お互いのいい部分をポジティブに見るようにするしかないでしょ。でも、ボクはもともと「団体」に入りたくないタイプです。一人の人間として生きていたい。だから、作曲家になったのかもしれないし。

啓介 ああ、一人の仕事ですものね。
スターク 自由でいたいんですよ。何かに縛られたりするとボクは嫌になる。ボクはミュージシャン。ボクはボク。一人の人間ですよ。これはもう性格としか云いようがないよ

人間が審査するってことでしょ？
スターク はあ、オモシロイこと考えるねえ(笑)。でも、同感ですね。審査員は神様じゃないから。特に作曲家にはコンクールなんて意味ないかも知れないね。バルトーク(作曲家)がウマイこと云ってますよ。「Competitions are for losers」(笑)。

啓介 ン、ええと…？
スターク 誰か訳して(笑)。まあ、分かりますよ。云うと「競争は馬にやらせておけ」ということなんだけどね。

啓介 なるほど(笑)。
スターク ボクは日本大好き。日本人も大好き。だからあまり悪口を云いたくないんだけど、ボクが仕事を頼まれて演奏する時、最初にプロフィールを見せただけで、相手は「うわあ、スゴイ」ってなっちゃうんだよね(笑)。

啓介 ああ、ジュリアードを出てるとか、どここのコンクールで受賞したとか。
スターク そう、文字を見ただけで驚かれますよ。「チョット待って、ボクまだナニも弾いてないヨ。音出してないヨ！」って(笑)。本当は音楽が大切なのに。

啓介 日本人ってそういうところ、あるかも知れないな。
スターク プロフィールは最低の目安であって、技術のレベルを見るのにはいいけれど、大切なのはそこじゃないよね。ボクはコンクールで賞を獲るために音楽をやっているわけじゃないからね。ミュージシャンになろうと思った時には、成功してもしなくても、絶対音楽を続けようって決心したよ。

啓介 さっき、ご両親が音楽家になることを反対してたって仰ってたけど、ブルースさん自身は、ずっとミュージシャンを目指してたんですか。

ね(笑)。
啓介 奥さん、日本人でしょう。夫婦喧嘩とかする？
スターク え、ナニヨ、イキナリ(笑)。ヘンなこと訊くなあ…。アメリカ人も日本人も関係ないですよ。一人と一人、ボクと奥さんの問題！

啓介 ごめん、ごめん(笑)。
スターク もう、立井さんの家といっしょだよ！(笑)。

(次号へ続く)

スターク 頭の中で鳴ってるんだよね、音が。子供の頃はそれをずっと聴いていた。でも父は「音楽なんかじゃ喧っていけない」って。ボクは小さい頃、数学の成績が良かったみたい。今では信じられないけれどね(笑)。だから最初は、大学で物理学を専攻したんですよ。
啓介 あ、じゃあそこを辞めて、ジュリアードへ入学し直したんだ？
スターク そう。ミュージシャンになりたいって。そう決心してからは、もう親に頼らないで全部自分でやった。今はもう、両親とも仲良くやっていますよ。

啓介 やっぱ「天賦の才」がブルースさんを動かしたんだ。
スターク ボクは無宗教だけど、スピリチュアルなものにはとても敬意を持ってる。だからいつも感謝してますよ、自分が力を授かったことにね。でも才能と努力、どっちも大切。これは難しいね。せっかく才能を授かってもらってもそれを生かさない人、努力しないでダメになっちゃう人。ボク、何人も知ってますよ。

啓介 僕は時々詩も書くんだけれど、普通の文章だと、必要に迫られればなんとか

書けちゃう。でも詩の場合、ちよつと違うんだな。何かこう、降りてくるものがあるって、湧いてくるものがあるって。うん、こっちは「待ってる」感じなんです。たぶん、作曲というものにもそんな感じがあるんじゃないですか。
スターク そう、それそれ！(笑)。ボクのニュアンスだと「訪ねてきてくれる」という感じなんだ。
啓介 うーん、そうそう。
スターク だからこっちは、何か「訪ねてきてくれた」時に、それをしっかりとつかまえるコンディションでいなきゃいけないんだ。そこでビジョンやヒントを授かる。それがないと作品を作るのには良いスタートが切れないんですよ。

啓介 走り出せない。
スターク そう。そこから先が技術の世界、努力の世界になっていくんだよね。
啓介 コンディションづくりの工夫とか、何かしてます？
スターク そうねえ…。ポーツとすること(笑)。でもね、これ大切なんです。毎朝起きた時、そういう時間を作るようにしてる。あとは楽巻と、いいコー

東京三菱銀行立川支店 高松町2-13-3 5244121
カフェ アバン 高松町2-17-15-2F 527-4479
トボス立川店 高松町2-18-18 525-0331
三井石油 フロンティア立川 高松町2-19-9 527-3943
手打ちそば 閑 高松町2-25-3 525-1400
串やきと牛たん店 JEAN 高松町2-32-14 529-6210
三田花店 立川高島屋店 高松町2-39-3-1F 526-4187
喫茶エミリーフローゲ立川高島屋店 高松町2-39-3-3F 526-9788
立川高島屋サービスフロア 高松町2-39-3-7F 525-2111
多摩画材(原品交換所) 高松町2-1-25 522-6031
丸助青果店 高松町2-4-18 522-3542
スーパーやなぎや 高松町2-5-17 522-4322
肉の専門店 伊勢屋 高松町2-6-20 524-2734
ケーキ&カフェ マリアン 高松町2-10-22 524-3912
米穀・食料品 横町屋 高松町2-11-23 522-2809
山梨中央銀行立川支店 高松町2-16-13 526-1571
レストラン 榎 高松町2-22-2 526-2276
cafe-restaurant & bar TIP-TOP 高松町2-27-27 525-2030
書籍・雑誌 フレンド書房 高松町3-18-2 527-1555
HAIR MAKES たしる 高松町3-26-16 525-2175



Table with 2 columns: Store Name and Address/Phone Number. Includes Orion Bookstore, Country Club, First Industrial Bank, etc.

えくてびあんの輪 (Eki-tebi-an no Ring) advertisement with logo and text.

Table with 2 columns: Store Name and Address/Phone Number. Includes Tokyo-Mitsubishi Bank, Cafe Avan, etc.

こんな個性と出会う街

吉例「ベスト立川人・展」

さあ、21世紀の幕開けです。
新春恒例「ベスト立川人・展」は16回目を迎えました。
新世紀へとケタは変わっても、われらがタチカワイズムは不変。
今年もこんなにたくさんの個性が集まりました。
2001年、立川人は元気です。



●ブルース・スタークさん（柏町）

名門ジュリアード出身。文化を超えて自在の活躍を見せる作曲家・ピアニスト、その勇姿に映る“侍魂”。



●荒井茉莉江さん（富士見町）

第30回世界児童画展・優秀作品賞受賞。ハンダを乗り越え描いた作品は、国境をも超え世界中で公開。



●甲斐逸朗さん・麻恩さん（砂川町）

スピリチュアリズムとエンタテイメントの奇跡の融合。気鋭の夫婦ユニット、その名も「天然音楽浴」。



●中野献一さん（柏町）

文化財に登録された砂川の旧邸を公開。重厚な歳を芸術活動の場としても使い、文化発信を目指す。



●岩部定男さん（一番町）

企画編集から販売までたったひとり。孜孜と営む“一人出版”の奮闘は出版人に本作りの原点を質す。



●甲斐真理子さん（曙町）

教育とは与えることにあらず「引き出すこと」。身障学級担任としての試行錯誤を綴った手記を上梓。



●金谷彩佳里さん（富士見町）

小学5年生で陸上女子100m日本一に。力強いフォームと天性のパネで、全国の大舞台を走る。



●斉藤直子さん（錦町）

「恐るべし歴史通」と審査員も驚嘆。第12回日本ファンタジーノベル大賞、四百の応募作から見事優秀賞に輝く。



●萩野博之さん（富士見町）

ワインアドバイザー全国選手権で決勝進出。卓球選手として世界で培った熱度は今やワイン道に結実。



●長井 泉さん（高松町）

持つべきは“ヤッコ魂”。商いの本質、理想型を現代人に示唆する和菓子舗「花奴万葉庵」創業者。

第16回「ベスト立川人・展」

●平成13年1月15日(月)～21日(日) 午前10時～午後8時
●立川駅ビル・ルミネ6F「ルミネギャラリー」

永年にわたって立川体育協会の会長をつとめ、専門の卓球世界を越えてスポーツ全般にわたって貢献してこられたこと、よく人の知るところである。専門の卓球では自ら「ピンキチ」(ピンポンきちがい)と云うほどに若年の頃から熱中し、かつ、卓球界のために貢献、大賞「文部大臣賞」を獲得している。現在は多くを後進に道を譲っているが、それでも「東京卓球連盟副会長」「東京都卓球連盟会長」などをつとめるといふ精力的な活動をみせている。まさに「卓球人生」の人。

(於: 真澄寺/撮影: 細江英公)

東風

今年の新年は格別の感慨をもってお迎えのことと思います。なにしろ千年紀、21世紀のはじまりなのですから。政治的にも経済的にも混迷をつづける日本だが、新世紀を迎え、どこかに光明をみる思いがする。混迷といえ、その時代に生きている人々にとっては、常にその思いが付きまとうものかもしれない◆いま工房では21世紀、最初の「ベスト立川人・展」を開くために「混迷状態」というか、大忙し。この一年、立川人の中には、こんなに活躍した人があるという称賛とエールをおくる写真展は、回をかさねて16年目を迎えるが、この間、一度も欠かしたことがないのは我ながら不思議である◆この立川に称賛できるような人が毎年、輩出するはずがないというのが大方の見方であった。当のえてびあんでさえも二、三年ももてば上等と考えていたのだが、あにはからんや、毎年、この人ならという人材に邂逅できた喜びを今、かみしめているところである◆「わが巨人軍は永遠です」という名言を借りれば「わが立川人・展は永遠です」と叫びたい心境、お分かりいただけるであろうか。ゆっくり、だが、確実に前進したいと希ってやまない。文化都市、立川のために◆初音 とじし 験に えくてびあん

【第3次えくてびあん同人】

編集 大久保清志/小林康史/杉山清純/芳賀敏博/山田五郎
デザイン 池田隆男/AMNET DF
写真 五塚幸平

えくてびあんの1月号

第18巻 通巻198号
平成13年1月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL. 042-528-0082 FAX. 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 立井啓介
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

Topics トピックス

市民による市民のためのミュージカル

第1回市民創作ミュージカル「櫻の街で」
11月23日・アミューたちかわ



わが街の夏の恒例催事となった「たちかわの夏」音楽祭。今年も様々な企画で地域の音楽ファンを喜ばせたが、その締め括りとして11月23日、アミューたちかわにて第1回市民創作ミュージカル「櫻の街で」が上演された。このミュージカルはその名の通り、参加者は一般市民の応募から選ばれたもの。演出や振付など一部のスタッフこそプロの人材が登用されたが、関わる人のほとんどがア



マチュアという、いわば「手づくり」のミュージカルだ。

舞台中央にそびえ立つケヤキの木が物語の象徴。乱雑な都市計画による環境破壊は、街のアイデンティティーをも壊すに至るといふ警鐘を、一組の父娘の関係を軸に描く。途中、ジャズバーのシーンでは、今月号の本誌対談に登場したブルース・スターク氏率いるジャズトリオの生演奏が披露されるなど、演出的にも様々な工夫が凝らされ、重いテーマを愉しく見せる作品に仕上がった。

年齢も経験もバラバラな人々が、ひとつの想いのもとに集い、準備期間に2年以上をかけて創り上げたミュージカル。その熱度がかがえる「あたたかい」公演であった。

WEST PORT

●柏町4-64-3 ●536-4569
●18:00~24:30 ラストオーダー24:00
●月曜日定休 ●36席、2F座敷有 ●P有(1台)

20歳でオーナーに...
学生でも気軽に立ち寄れる店にと
カクテル全品500円からスタート



玉川上水駅の近くに空色の外装の店「WEST PORT」がある。オーナーの岡田辰浩さん(24)は、17歳から同店でアルバイトをしていた。20歳のとき突然、「お店を継いでくれないか」と前のオーナーから話を持ちかけられる。小さな頃から母親の浩子さんの働く後ろ姿を眺めながら育った辰浩さん。願ってもないチャンスと、すぐに浩子さんに相談。親戚に起業家が多く、若くして働くことに何の違和感もなかった。進学も考えなかった訳ではないが、いつまでも親に頼っていることが嫌だったのだ。すると母は二つ返事、快く後押しを約束してくれた。こうして若干20歳でお店のオーナーに。ところが、いざ、お店を始めたは良いが、所詮素人。料理のこと、カクテルのこと、学ぶべきことは多かった。独学を進める傍ら、各地のBARを訪ね歩き、頼み込んでカクテルの作り方を教えてもらう。その甲斐あって、今では常時100種類以上のカクテルを揃える。アルバイトをしているときから感じていたのは、カクテルの値段が高いということ。若い人たちが立ち寄りやすいように値段を安めに設定。ダーツのマシンを置いたり地域の人たちにくつろぎの場所を提供している。



タコライス(写真) 880円
3トッピングピザ 880円
カクテル各種(100種類以上)
500円~
ZIMA 600円



真味百撰 45

ごとの独断毒語

18

敗者集団

新春の二日、三日と恒例の箱根駅伝が行われるが、私たち上智大学の陸上競技部もこの大試合に挑んだことがありました。もう、かれこれ四十年近く前の話です。

ご存じの方も多いと思いますが、このレースに出場するには厳しい予選を通過しなければなりません。当時、十五大学が出場して下位五大学が、他の希望する大学と一緒に十マイル、約十六キロのコースを十人で走り抜かなければなりません。上智のような「お坊ちゃん大学」の学生の中から十人の長距離ランナーを生み出すのは容易ではありませんでした。従ってシーズンになると短距離の選手も交えて、総動員で練習に励むのですが、短距離と長距離とは走法が違うので、なかなか記録が伸びない。

私たちは合宿を幾度も繰り返し、挑戦するのですが、予選会で上位五大学に入るのは至難のことです。遠く及びませんでした。それでも、四年目には六位になり、もう一歩というところまでいきました。五位の防衛大学校に僅差で負けました。一人があと六秒速く走って、いけば勝つたのに、地団駄ふんだ記憶は多分、生涯忘れないでしょう。



毒三郎愛猫V

私がなぜ箱根駅伝に熱中したかというとき、登山をやっている、そのトレーニングのために大学のグラウンドで走っているうちに段々と走力がついてきて、学内大会でついに学長杯を頂戴するところまでいきました。早速に競技部の監督がやってきて、——「こらう、予選を通過したら箱根の山を走らせてやる。」

こらうのです。第五区の出発は駅伝の白眉です。私は奮い立ちました。それから大変で、毎日、苛酷な練習の繰り返

返し。私は登山をやっていたお陰でスタミナはありましたがスピードが足りません。スピードと云っても短距離のそれではなく長距離のスピードですので、千五百メートルのインターバル練習を十本といった具合で、練習が終ると立っているのがやっとというような日常でした。

結果、四年出場して全部、敗北。

ところで、先日、陸上競技部の創立五十周年のパーティーがありました。話は箱根駅伝で盛り上がりました。盛り上がったと云っても「敗者集団」のそれですから、タカの知れたことですが、あの、青春の苛酷さは誰もが忘れがたいものとみえます。

誰かが云いました。——敗者の青春というのも悪くないねえ。

勝負である以上、勝者と敗者がいるのは当然です。そして、幾星霜を経て「敗者の集い」をもつ。これもまた「人生」かなあ、と私は妙な感慨にふけったものでした。

駅伝のある二日、三日は寝正月を決め込んでいると、必ず娘が私を起こしにきます。——テレビで駅伝やってるよ。私は眠い眼をこすって飛び起きます。

(やまだこらう・詩人)

黄絹幼婦

この四字で「絶妙」を表す。黄絹は、色のついた糸で、色糸の二字を偏と旁に置くこと「絶」になる。また幼婦とは、少女のこと、この二字を偏と旁に並べると「妙」となる。よって判読の見事さを意味する。



「常楽我浄」11:55(土曜)放送時間
スカイパーフェクトTV 216ch、マイテレビ 84ch
土曜 午前9時~9時15分
午後7時15分~7時30分
再放送/火曜 午前9時~9時15分
午後7時45分~8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十五年

真如苑

電話1-2-13 Tel. 527-0111(FX)

首都圏に広がる とみん銀行

暮らしに、事業に
お役に立つよう
努力しています。

とみん銀行

デジタルえほん メモリーブックにどうぞ...



PLANNING・DESIGN・PROCESS・PRINTING
火度社 042-527-1911
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13
FAX. 527-1949
E-mail JD105215@mhy.jp

パンフラワー作家 結城公子 (栄町)

EKUTEBIAN
TACHIKAWA
アトリエだより
6
ATORIE-DAYORI



個展「ちょっとTea Time」
出展作品より



パンフラワーに出会うまでの私はとても飽きっぽく、何をしても続けるということができない、そんなタイプの人間でした。ところがこのパンフラワー、気がついたらもう二十年以上のつきあいです。

これまでと違ったところが違うのか、自分でもよくわからないのですが、ただ一つはっきりしているのは「湧いてくる感覚」です。家事をしていて、買い物をしていて、ふっと湧いてくる。今度こんな色で造ってみよう、この器ならこんな花を造ってみようって、どこで何をしていてもすべてパンフラワーにつながってしまう。この感覚はこれまで味わったことがないものでした。

今では、個展の期日が迫っても、なんにも湧かずに焦ることも度々。でも、パンフラワーはいつの間にか私の芯棒になっていました。飽きるなんて感覚も忘れてしまったようです。

Y. Kimiko